

【第85回生涯教育講座】

緩和ケアチームにおける放射線治療

うち だ のぶ え
内 田 伸 恵

キーワード：放射線治療，緩和ケア，癌性疼痛，チーム医療

要 旨

2003年10月島根大学医学部附属病院に緩和ケアチームが発足してから約5年が経過した。緩和ケアチーム活動における放射線治療の意義を検討し報告する。また，緩和医療における放射線治療対象疾患で最も頻度の高い病態である有痛性骨転移について，当院症例での放射線治療の効果を検討し，さらに文献的考察を加え概説する。

はじめに

2003年10月島根大学医学部附属病院に緩和ケアチームが発足し，緩和病棟を持たないコンサルテーションチームとして活動している。緩和ケアチームの構成員はセンター長，専従医師1名，専従看護師（緩和ケア認定看護師）1名，麻酔科医，精神科医，放射線治療医，薬剤師，医療ソーシャルワーカー，理学療法士，管理栄養士，医事課事務職員等である。チームの発足以来，放射線治療医も緩和ケアチームの一員として，定例カンファレンスで患者の状態や治療方針について検討する，院内勉強会の講師を務めるなどの活動をおこなってきた。緩和的放射線治療の意義については既に多くの報告があるが，緩和ケアチーム医療活動における放射線治療の意義を検討した報告は少ない。

今回，その活動内容と意義を検討し報告する。

緩和医療において放射線治療が適応となる病態は，腫瘍による組織破壊に起因する疼痛，腫瘍による圧迫や狭窄・閉塞，出血など多岐にわたる。そのうち最も放射線治療が施行される頻度の高い有痛性骨転移について，その臨床的意義を文献的考察を加えて概説する。

緩和ケアチームにおける放射線治療の意義

1) 対象

対象は，2003年10月から2008年6月末までに緩和ケアチームがコンサルテーションを受け，チームとして対応をおこなった症例中，放射線治療医が関与した症例181例を retrospective に検討した。

2) 評価方法

検討項目は，依頼内容，放射線治療方法と効果，認容性である。

3) 結果（表1）

緩和ケアチームが併診したうち，放射線治療医

Nobue UCHIDA

島根大学医学部がん放射線治療教育学（放射線治療科）
連絡先：〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1